



2023年 2月28日発行



今回の紙面から（ページと内容）

会長挨拶	1
第16回国際春季フォーラムのご案内	2
第41回大会のご案内	2
大会優秀発表賞審査結果報告	2
(Student) Workshopの企画募集	3
被災された方の会費免除のお知らせ	3
終身会員の登録申請について	3
理事会より	4
編集委員会より	4
大会運営委員会より	5
広報委員会より	6
学会賞委員会より	6
日本英語学会2022年度収支中間報告書	7
言語学会連合について	8
人文社会科学系学協会における男女共同	
参画推進連絡会（GEAHSS）について	8
事務局より	8

会長挨拶

会長 金子 義明

新型コロナウイルス感染症の流行第8波の只中で新年を迎える状況となりましたが、会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。今回は流行期にあるものの行動制限もなく、感染対策と本来の日常生活への復帰とのバランスをいかにとるかがこれからの課題となりそうですが、学会開催に際しても重要な課題となります。

2022年度の国際春季フォーラム（SF）と秋の年次大会は、昨年度に引き続き、全面的にオンライン開催となりました。

5月14日・15日開催の第15回国際春季フォーラムは第14回大会に引き続き、オンライン開催となりました。坂本祐太 SF15 実行委員長をはじめと

する大会運営委員の方々、土橋善仁先生をはじめとする協力校の中京大学の方々、島越郎事務局長をはじめとする事務局メンバーの方々の多大なるご尽力により、2日間を通じて120名程度の参加者がありました。海外からの参加者も含めて多数の方々にご参加いただき、オンライン開催の利点が活かされたフォーラムとなりました。

11月5日・6日に開催された第40回大会も、オンラインで開催されました。第38回および第39回大会の経験を踏まえた運営により、研究発表・シンポジウム・公開特別シンポジウム・特別講演、およびワークショップ／スチューデント・ワークショップと極めて充実したプログラム内容を実現することができました。2日間にわたる大会を通して300名程度の参加者がありました。参加された方々のアンケート内容は概ね肯定的なものでした。オンライン開催は、感染症流行がもたらしたものではありませんが、数多くの有益な知見を得ることができましたので、現地開催に復帰した場合に、そのノウハウをどのように活かしていくかが今後の課題となります。

なお、2023年5月13日・14日開催の第16回国際春季フォーラムは、すでにホームページで案内されておりますように、青山学院大学で現地開催される当初の予定からオンライン開催に変更となりました。11月の第41回大会につきましては、現在のところ、東京大学（駒場キャンパス）で現地開催される予定です。中国のゼロ・コロナ政策の断念による影響が新たな不確定要因となる中で、大会を確実に開催し、研究発表の場を会員の皆様に確実に提供することを最優先として準備をすすめてまいります。

学会賞関係では、長辻幸氏が著書 *The Pragmatics of Clausal Conjunction* により2022年度学会賞（著書）を受賞されました。おめでとうございます。2023年度に向けて、会員の皆様には積極的なご応

募をお待ちしております。

ホームページで告知されておりますように、英語学会誌 *English Linguistics* は2023年度刊行の第40巻から年1回の刊行になりますが、これに併せて投稿規定の改定等が予定されております。詳細につきましては決定次第ホームページでご案内いたしますのでよろしくお願いいたします。

学会ホームページの昨年12月3日付けの新着情報でお知らせしておりますように、英語学会からの情報発信促進の一環として、日本英語学会公式 Twitter が開設されましたのでご活用いただければ幸いです。Twitter をご利用の会員の皆様におかれましては、フォローをよろしくお願いいたします。

昨年11月開催の第85回理事会におきまして、第12代会長を務められました廣瀬幸生先生を学会顧問に推薦申し上げることが決定され、廣瀬先生から顧問就任をご快諾いただきました。4月から顧問にご就任いただきます。

2021年4月から会長を務めて参りましたが、この3月末で会長任期を満了いたします。これまでの多大なるご支援に心より感謝申し上げます。次期会長には西岡宣明現副会長にご就任いただきます。4月からは副会長として西岡新会長体制をバックアップすることになりますが、会員の皆様には、西岡新体制のもと英語学会の運営に引き続きご協力いただきますよう、お願い申し上げます。

第16回国際春季フォーラムのご案内

第16回国際春季フォーラム (SF16) は次の通り開催されます。

日時：2023年5月13日(土)・14日(日)

場所：Zoomによるオンライン開催

プログラム等に関する Zoom 情報については、後日学会ウェブサイト (<https://elsj.jp/about-the-elsj-spring-forum/>) にアップロードします。

今年度の第40回大会と同様、SF16 への参加を希望する方は、オンライン参加登録システムで事

前登録の上、大会参加費を納入して頂くことになります。登録に関する詳細は、4月中旬に学会 HP に掲載予定の「SF16 オンライン参加登録について」をご覧ください。

なお、最新情報につきましては、随時、学会ウェブサイトにて更新いたしますので、ご注視いただけますようお願いいたします。

第41回大会のご案内

第41回大会は次の通り開催される予定です。

日時：2023年11月4日(土)・5日(日)

場所：東京大学 駒場キャンパス

(〒153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1)

また、第40回大会より EasyChair (発表要旨の応募をオンライン上で行うシステム) を導入しました。それに伴い、研究発表とワークショップの応募については、応募者自身が EasyChair に登録する必要があります。詳しい応募方法につきましては学会 HP (http://elsj.jp/sf_top/) をご覧ください。会員の方は奮って研究発表にご応募ください。応募締切は2023年4月1日(土) 23時59分(必着)です。応募の際は、学会ウェブサイト「研究発表応募規定」欄 (<http://elsj.jp/meeting-kitei/>) 掲載の同規定をご確認ください。また、「大会優秀発表賞」は、2019年度より審査の対象が拡充されましたので、奮ってご応募ください(詳細は、学会ウェブサイトをご覧ください)。なお応募規定違反の原稿が見受けられますので、規定の内容をよく読み、遵守していただきますようお願いいたします。

大会優秀発表賞審査結果報告

第40回大会の大会優秀発表賞について、審査希望者を対象に査読段階の点数による一次審査と、大会(オンライン開催)当日の発表(Zoom による発表)に対する二次審査が行われました。審査結果については、12月に開催された大会運営委員

会で審議され、村岡宗一郎氏（日本大学）「使役動詞補文に出現する原形不定詞の非同時性について」に佳作を授与することが決まりました。

村岡氏の発表は、次の2点が評価されました。まず、先行研究で言及はされてきたものの中心的なものとしては取り上げられてこなかったデータを整理した点、また、同時性という問題設定と使役主による使役事象の制御可能性が重要な要因であるという仮説のもと、体系的な記述と分析を行っている点が評価されました。さらに、発表方法や発表資料、時間配分のいずれも配慮が行き届いており分かりやすい発表である点も評価されました。一方で、記述面ではコーパス調査や話者への調査によって発表者自身によるまったく新たなデータの発見があったわけではなく、分析面でも使役主による制御可能性が関係している可能性が高そうなことは示されているものの、細部に検討の余地が残されている点が指摘されました。また、質疑応答ではやりとり自体は丁寧で誠実であったものの、分析が途上であるために答えが明快でないところもある点も指摘されました。

（Student）Workshopの企画募集

日本英語学会では、会員の自主的な企画・運営により、特定のテーマに関する発表と自由な討論をしていただく場として、ワークショップ／スチューデント・ワークショップ企画を例年募集しています。第41回大会では、11月4日（土）の午前9時30分から11時45分までをワークショップ／スチューデント・ワークショップにあてる予定です。企画・運営をご希望の方は、学会ウェブサイト「秋季大会ワークショップ」欄（<http://elsj.jp/workshop/>）掲載のワークショップ企画募集案内をご確認のうえ、**2023年4月1日（土）23時59分までに必着にて**、同案内指定のアドレス宛に企画書とワークショップ応募用紙（Excel ファイル）を送信してください。

被災された方の会費免除のお知らせ

昨年発生しました大雨・台風などの自然災害により被害を受けられた皆様、日本英語学会よりお見舞い申し上げます。

学会ウェブサイトでご案内しておりますように、国内で発生した自然災害により被害を受けた会員の方につきましては、その災害が起こった年度、またはその翌年度の会費を免除する制度が適用されます。学会では特に災害は指定せず、会員ご本人の申請によって事務局で会費免除の手続きを行います。

また、会員ご自身の被災だけでなく、会員が生計を支援している方や会員の生計を支援されている方が被災された場合も対象となります。なお、当該年度に入会される方についても、該当される方は会費を免除いたします。

詳細につきましては、学会ウェブサイトの「各種手続き・お問い合わせ」をご覧ください。

免除を希望される方は、上記サイトにあるファイルをダウンロードしてご記入の上、学会事務局までメールに添付してお送りください。（elsj-info@kaitakusha.co.jp）

* 申請は随時受け付けます。

* 申請時においてその年度の会費が納入済みの場合は、次年度の会費に充当させていただきます。

* 既に申請時の年度の会費を納入されていて、特に返金をご希望される場合は、上記のファイルにその旨をご記入ください。

ご不明な点は事務局までお問い合わせください。

終身会員の登録申請について

2017年度より、終身会員の登録申請を受け付けています。終身会員は、満56歳になった年度から10年間、会費を全納した会員を有資格者とし、所定の申請書を提出し、終身会員会費3万円を支払うことで認められます。終身会員の方には、EL、ニューズレターなどが送付されるほか、秋の大会および国際春季フォーラムの懇親会に無料で参加していただけます。終身会員に関する規定

等については、学会ウェブサイトのトップページにある「入会申し込み」から「終身会員登録手続きについて」という項目をご覧ください。来年度の登録申し込みは、4月1日から4月25日です。登録期間外のご申請はご遠慮いただけますよう、お願い申し上げます。

理事会より

◇ 会長選挙と理事選挙

2023年度は、会長選挙と理事選挙が行われます。選出された会長候補者にはまず2024年度副会長を務めていただき、その後2025年度より2年間会長を務めていただくことになります。また、理事候補者には2024年度より4年間理事を務めていただくことになります。

◇ 「助成金」の運用

2018年度に創設された2つの助成金である「学生会員発表助成金」と「市河三喜研究助成金」が、2019年度から運用されています。詳細は学会ウェブサイトをご覧ください。

◇ 会計

2022年10月24日から10月30日にオンライン（メール会議）で開催された理事会と、同年10月31日から11月2日にオンライン（メール会議）で開催された評議員会において、日本英語学会2022年度収支中間報告が承認されました。中間報告書（通常予算用）は本ニューズレターの7ページに掲載されておりますのでご覧ください。

◇ 役員の異動

大会運営委員長（退任）

本間猛氏（東京都立大学）が2022年12月3日付で退任されました。1年間、大会運営委員会の運営にご尽力くださり、誠にありがとうございます。

大会運営委員長（就任）

田川拓海氏（筑波大学）が2022年12月4日付け

で就任されました。任期は1年間です。

◇ 会員数の変動について

現在の会員数は1175名（2023年1月12日現在）です。内訳は、学生会員40名、通常会員942名、維持会員114名、海外会員6名、終身会員58名（顧問9名を含む）、賛助会員15団体となっております。

編集委員会より

◇ *English Linguistics* 第40巻からの年1号化と投稿方法のオンライン化について

学会ホームページ等を通してお知らせしていますとおり、*EL* 40巻から年1回の刊行（年1号化）となります。この1号化に向けて、*EL* 40巻（2024年3月発行予定）への応募受付（2023年4月1日応募締め切り）を一時中止し、編集委員会内に設けられた作業チームで投稿規定等の改正作業を進めてきましたが、現在その作業も最終段階に入っています。これに加えて、投稿方法のオンライン化の準備も進められ、*EL* 40巻からオンライン投稿システムへ移行する方向で最終調整に入りました（2023年1月8日現在）。

EL 40巻の応募に関する詳細につきまして、今後会員の皆様には、学会HPを通して随時ご案内していく予定です。まず、投稿規定等の改正につきましては、その内容を2月中旬にご案内できる予定です。また、*EL* 40巻へのオンライン投稿システムによる応募受付の開始時期につきましては、2023年3月20日を予定しております。オンライン投稿に関する詳細や操作マニュアルにつきましても、学会HPに随時アップロードする予定です。会員の皆様にはご理解とご協力をお願い申し上げます。

◇ *English Linguistics* 第39巻1号（2022年秋号）の刊行について

EL 第39巻1号（秋号）が刊行されました。Article 2編、Notes and Discussion 1編、Review 5編が掲載されています。会員の皆様には刊行が遅れましたことをお詫び申し上げます。

◇ **English Linguistics** 第39巻2号（2023年春号）
の刊行予定について

EL 第39巻2号（春号）は2023年3月に刊行される予定です。Article 1編、Brief Article 1編、Notes and Discussion 2編、Review Article 1編、Review 5編が掲載される予定です。

◇ **English Linguistics** 第40巻（2024年春号）の
応募論文について

EL 第40巻の一般論文の応募締め切りは2023年4月1日ですが、現在、当該巻からの年1号化の準備のため、応募受付を一時中止しています（2023年1月8日現在）。

なお、第39巻2号に投稿されて「4ヶ月書き直し」と判定され、第40巻に再投稿された論文の総数は6編で、Article 4編（Syntax 2, Syntax/Phonology 1, Morphology/Semantics 1）、Brief Article 2編（Syntax 1, Cognitive Linguistics 1）でした。

以下の表は、懲慥によるRA 1編、Review 3編と前号より「4ヶ月書き直し」として再投稿された論文6編の、第40巻の審査状況です（2023年1月8日現在）。

	応募数	採用	不採用	取り下げ	審査中
RA	1	0	1	0	0
Review	3	0	0	0	3
4ヶ月書き直し					
AR	4	1	3	0	0
BA	2	1	0	0	1
合計	10	2	4	0	4

◇ **2022年度 EL 論文賞**について

EL 論文賞について、2022年度は2021年9月20日締め切りのEL 第39巻1号（2022年10月刊行済み）で採用となったAR 2編、および2022年4月1日締め切りのEL 第39巻2号に投稿され、すでに採用となったAR 1編の計3編について、まず、分野別一次審査を行いました。審査対象となった論文の分野はSyntax 2編、Syntax/Phonology 1編です。総合的に審査した結果、2022年度は1次審査通過論文なしとなりました。

◇ **preprintの公開について**

EL への投稿原稿（preprint）を個人のウェブサイト等に掲載することに関してガイドラインが定められています。詳しい内容については、学会ウェブサイトをご覧ください。

大会運営委員会より

◇ **大会運営委員会の構成**

昨年12月より大会運営委員会の構成は次のようになりました。

（委員長）田川拓海氏

（副委員長）杉村美奈氏

（委員）大谷直輝氏（国際春季フォーラム実行委員長）、小田登志子氏（国際春季フォーラム副実行委員長）、今西祐介氏、臼杵岳氏、山村崇斗氏、葛西宏信氏、平沢慎也氏、町田章氏[以上留任]、菊地翔太、熊谷学而、香本直子、三上傑、森田千草 [以上新任]

◇ **第41回大会シンポジウム企画について**

現在準備が進行中です。予定されているシンポジウムは「語を味わい尽くす―「多面的な理解」の実践―」及び、「Comparatives in English and other languages」「深層学習時代の英語研究」（タイトル等変更の可能性あり）です。詳しい内容は次号のニューズレターでお知らせします。

◇ **JELS 40** について

JELS 40は電子版のみで作成され、学会ウェブサイトに掲載されます。3月末公開を予定しております。なお、JELS 37より、希望者には、リポートとして、ワークショップとシンポジウムに加え、特別講演も掲載することにしております。ただし、ワークショップやシンポジウムと同様に、「論文」ではなく「報告」としての扱いとなります。JELS 投稿用の原稿サンプル等を改定し、ウェブサイト（<http://elsj.jp/jels/jels-kitei/>）に掲載していますので、ご投稿の際にはご一読ください。

◇ 第40回大会の報告

第40回大会は、2022年11月5日(土)・6日(日)の両日、オンライン上 (Zoom 使用) にて開催されました。本大会では、ワークショップ2件、特別講演3件、研究発表19件が行われました。参加者数は、1日目は176名、2日目は138名でした。オンライン開催のために書籍展示は行いませんでしたが、6社に大会期間用 URL をご提供いただき、一覧表にしたファイルを学会ウェブサイトにて大会期間中掲載しました。関係各位のご献身ならびに参加された諸氏のご協力により開催できたことに対して、心より御礼申し上げます。また、Google Form にて大会運営に関するご意見を伺いました。貴重なご意見を多数いただきました。誠にありがとうございました。今後の大会運営の参考にさせていただきます。

◇ 「親と子の部屋」について

第41回大会は現地開催で行われる予定ですが、コロナ禍の中での開催となるため、「親と子の部屋」を設置するかどうかは検討中です。今後の動向を含めた詳細は、今後学会ウェブサイトや9月発行予定のニューズレターでお知らせします。

広報委員会より

◇ J-STAGE (科学技術情報発信・流通総合システム) での *EL* オープンアクセス化に向けた作業について

EL は原則として刊行の2年後に J-STAGE にて電子ジャーナルとして公開しています。現在までに *English Linguistics* 第36巻第2号まで公開が完了しています。今後も、担当委員により1号ずつ公開作業を進めていく予定です。以下の URL をご参照ください。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/elsj/-char/ja/>

◇ *EL* 刊行と同時の電子化について

学会ウェブサイト (www.elsj.jp) に設置されている *English Linguistics Online* に第38巻2号まで公開が完了しています。ダウンロードは会員

に知らされたID・パスワードによって可能です。以下の URL をご参照ください。

http://elsj.jp/english_linguistics-eng/english-linguistics-online/

◇ 日本英語学会公式 Twitter の開設について

日本英語学会の公式 Twitter を開設いたしました。このアカウントは広報委員会が管理し、主に公式サイトの新着情報をお伝えしていきます。Twitter のアドレスは以下の URL となります。

https://twitter.com/PR_ELSJ

また、この公式アカウント開設に伴い、公式サイトに「SNS 運用方針」/Social Media Moderation Policy を追加しました。詳細については、以下の URL をご参照ください。

https://elsj.jp/social_media_moderation_policy/

学会賞委員会より

◇ 2022年度学会賞選考結果報告

日本英語学会賞は、学会賞 (著書)、学会賞 (論文)、新人賞の3部門で応募を受け、審査を行っています。今年度の選考は、2022年度学会賞委員会 (遠藤喜雄委員長、由本陽子副委員長、岡田禎之編集委員会委員長、本間伸輔編集委員会副委員長、島越郎事務局長) のもとに実施されました。2022年4月1日から4月15日の応募期間内に、学会賞 (著書) に著書3編の応募がありました。学会賞 (論文) と新人賞への応募はありませんでした。

学会賞 (著書) については、5月中旬から10月中旬まで審査が行われました。その結果、2022年度学会賞 (著書) は、長辻幸氏 (公立小松大学) の *The Pragmatics of Clausal Conjunction* (Hituzi Syobo, 2021) に授与することになりました。選考結果は2022年11月5日(土)に開催された日本英語学会第40回大会の総会において報告され、そこで授賞式が行われました。なお、選考委員を務めていただいた方々の氏名は *EL* 40巻に掲載される学会賞委員会報告に記載されます。

受賞作の概要と評価は次の通りです。

◇ 学会賞（著書）受賞著書

長辻氏の著書は、関連性理論の枠組みで英語および日本語の節連言構造の解釈メカニズムを明らかにしたもので、論点がしっかりと検証されており、国外にあまり知られていない日本語の研究やデータを海外に発信することによる効果も期待できる点が評価されました。また、オリジナリティの点で少し物足りないという指摘もありましたが、今後発展する可能性は高いと判断され、日本英語学会賞の授賞にふさわしい著作であると評価されました。

言語系学会連合について

日本英語学会は、本年度（2022年度）は監査委員学会として活動しました。来年度（2023年度）は副委員長学会として活動することになります。

2022年度 第1回言語系学会連合運営委員会が5月29日（日）10:00-12:10にZoomで開催され、（i）2022年度の運営体制、（ii）2021年度の活動報告・決算、（iii）2022年度の活動・事業計画・予算、（iv）意見交換会の開催場所・日時、（v）運営委員会メーリングリスト（ML）の運用（オブザーバー参加）、（vi）UALS ウェブサイトの更新と今後の運用の6つの議題について審議しました。（vi）に関しては、今後のSNSの活用に関してワーキンググループを立ち上げ検討することになりました。日本英語学会からは、ワーキンググループに秋庭大悟広報委員長に加わっていただきました。既に、ワーキンググループから答申が出され、その答申を運営委員会で審議しました。その結果、SNS チーム管理者の候補者がもしあれば、各学会から推薦していただくこととなりました。広報委員会を中心に検討していただきましたが、日本英語学会としては今回は推薦を見送ることとしました。

言語系学会連合第12回（2022年度）意見交換会が7月17日（日）13:00-15:00にZoomで開催され、38加盟学会のうち28学会が出席しました。（i）共催制度募集、（ii）学会の開催形態、（iii）シニア会員、（vi）学会誌の完全電子化の4点について意見交換を行いました。

9月10日、2022年度言語系学会公開シンポジウム「コミュニケーションの技法」が開催されました。公開シンポジウムの動画がウェブページにアップロードされています。次のURLから御覧ください。<https://uals.net/symposium/>

言語系学会連合の詳細と加盟学会の活動予定等については、下記のウェブページをご覧ください。<https://uals.net>

人文社会科学系学協会における男女共同参画推進連絡会（GEAHSS）について

日本社会学会が企画・GEAHSS 主催の公開シンポジウム「人文社会科学系学協会・大学におけるジェンダー平等の現状と課題」の日時と内容が決まりました。

日時：2023年3月26日（日）13時30分～17時

開催方法：ZOOM によるオンライン開催・

参加無料事前申込制・定員500名

第1部 基調講演「ジェンダー平等教育の国際比較—初等中等教育の功罪」講師：河野銀子（山形大学、教育社会学、国際ジェンダー学会）

第2部 パネルディスカッション「学協会・大学におけるジェンダー平等」座長：安藤由美（GEAHSS 幹事・日本社会学会）パネリスト1：石井クンツ昌子（お茶の水女子大学、家族社会学、日本社会学会）パネリスト2：海妻径子（岩手大学、男性史、ジェンダー史学会・日本女性学会）パネリスト3：高橋裕子（津田塾大学、アメリカ社会史（女性・家族・教育）、アメリカ学会）全体討論：パネリスト、河野銀子、伊藤公雄

参加申込方法につきましては、GEAHSS のHP <https://geahssoffice.wixsite.com/geahss> をご覧ください。

事務局より

◇ 会員数について

「理事会より」の欄でもお伝えしたように、2023年1月12日現在の会員総数は1175名です。

◇ 会費納入のお願い

会費未納の方は、学会支援機構から送られます振込用紙で納入していただきますようお願いいたします。2年間滞納されますと、会則第8条第4項により、自動的に退会扱いになりますので、ご注意ください。

◇ 学生会員登録（継続会員）について

2023年度に学生会員として登録（2022年度からの継続）を希望される方は、以下の要領でお申し出ください。申告期間の終了後に2023年度の会員種別を確定し、会費請求をいたします。

学生会員登録は年度ごとの登録で、自動更新ではありません。申告期間内にお申し出がない場合には、通常会員として会費請求がなされますのでご注意ください。特に年度末の2月、3月に学生会員として新入会された場合も、新年度には改めて申告をしていただくようお願いします。

- ・申告資格：次の①もしくは②の条件を満たす会員

- ①大学など学校の「学生」の資格をもつ会員
- ②研究生・聴講生・専任の勤務を持たない大学院修了者、および外国の大学の日本校の学生

- ・申告期間：2023年4月1日～4月25日（必着）

- ・申告方法：会員番号・氏名・4月以降に在籍する学校の名称を記した用紙に、4月以降に学生であることを証明する以下の(1)から(4)のいずれかの書類を添付し、事務局宛（宛先は奥付参照）に「学生会員登録希望」と必ず朱書きのうえ、郵送してください。

- (1) 在学する学校の発行する在学証明書
- (2) 学生証のコピー
- (3) 進学する学校・課程の合格通知書のコピー
- (4) (元) 指導教員（所属明記）の署名（捺印）と証明の言葉

専任の勤務先を持たない大学院修了者は、(4)の方法により書類を提出してください。申告されたのちに変更が生じた場合や不明な点がある場合には、事務局宛（elsj-info@kaitakusha.co.jp）にご連絡ください。

なお、コロナ禍の影響で申請期間内に学生会員を証明する書類を送付できない場合は、あらかじめ事務局宛（elsj-info@kaitakusha.co.jp）にご相談ください。

◇ 学生会員登録（新規入会）について

年度途中で学生会員として新規に入会される場合には、上記の学生会員登録と同じ要領で申し込むことにより、申告期間にかかわらず、いつでも

初年度から学生会員として登録ができます。この措置は、新規入会者のみに認められるものですのでご注意ください。詳しくは、学会ウェブサイトをご確認ください。

◇ *EL*、*JELS*への論文投稿に関するお願い

EL、*JELS*に論文を投稿される際には、日本英語学会ホームページに掲載されております「*English Linguistics* 投稿規定」「*JELS* 投稿規定」をよくお読みいただき、規定を遵守したうえで投稿されるようお願いいたします。編集委員会あるいは開拓社宛に投稿・通知する場合には必ず指定されている宛先のアドレスに送信してください。開拓社から送られる受領確認用の自動返信メールアドレスに送信されても受理できません。

EL に関して、編集委員会あるいは開拓社宛に投稿・通知する場合には、メールの件名およびメール本文には「*English Linguistics* 投稿規定」ページ末尾の「投稿論文の *EL* 掲載までの手順案内」の表で指定されている情報を必ず明記してください。

JELS や所属機関の working papers 等に掲載された研究（の一部）を発展させて *EL* に投稿する場合には、論文審査が公平で厳正に行えるよう、投稿者自身のこれまでの関連する研究論文の情報は必ず記載してください。なお、相互に匿名による審査体制であることに留意し、本文等でそれらに言及するときには、三人称表現をご使用ください。

◇ *EL* 掲載論文の再録やレポジトリへの登録に関するお願い

EL に掲載された論文の著作権は日本英語学会にあります。そのため、*EL* に掲載された論文を他のジャーナルや著書に再録する場合には、本学会の許可が必要です。再録をご希望の場合には、事務局宛（elsj-info@kaitakusha.co.jp）にお知らせください。

また、各大学で「学術情報レポジトリ」や「電子アーカイブ」に *EL* に掲載された論文を登録することを希望される場合、事務局までお知らせください。日本英語学会では、発行後2年以上経過

した論文の登録をお認めしています。無断での再録・登録は著作権侵害となりますので、ご注意ください。

◇ JELS 掲載論文の再録・登録に関するお願い

JELS 掲載論文についても、再録および学術情報レポジトリや電子アーカイブへの登録や個人のウェブサイトへ掲載の場合には、EL 掲載論文の場合と同様に、事務局 (elsj-info@kaitakusha.co.jp) までお申し出ください。

JELS 掲載論文については、発行後1年を経過したものについては、申し出があれば再録や学術情報レポジトリなどへの掲載をお認めしています。

なお、JELS 37からは電子化に移行しましたので、それ以降の掲載論文はオープンアクセスとします。したがって、JELS 37以降の JELS 掲載論文は再録及び学術情報レポジトリや電子アーカイブへの登録や個人のウェブサイトへ掲載の場合に、随時事務局にお申し出いただく必要はありません。

◇ EL 公費購入のお願い

ご所属の大学図書館や研究室で EL を購入されていない場合には、ぜひ購入の手続きをしていたくださく存じます。EL がより多くの研究者に知られるだけでなく、本学会の運営にも益するところがありますので、よろしくお願いいたします。

◇ 電子版投稿・審査体制に関連するお願い

研究発表応募、EL への投稿、および学会賞・新人賞への応募の電子化に伴い、学会から会員の方々への連絡は電子メールで行っています。所属の異動等に伴い連絡用アドレスの変更がある場合には、学会にもお知らせいただきますようお願いいたします。

なお、事務局あるいは各委員会からメールで連絡を差し上げた際の返信につきましては、通常1週間の余裕をみてお願いしておりますので、その期間内にご返信をいただけますようご協力ください。

◇ 終身会員の大会参加にあたってのお願い

終身会員におかれましては、大会ご参加時の受付にて、終身会員カードをご提示いただき、自ら終身会員である旨お申し出いただけますよう、お願いいたします。受付にはアルバイトの学生が多く協力してくれていますが、終身会員のお名前を存じ上げない場合が多く、特に混雑時にはなかなか配慮が行き届きません。(顧問を除く) 終身会員におかれましては大会参加費はお支払いいただけますよう、お願い申し上げます。

◇ 会員登録情報確認のお願い

会員情報の管理を委託している学会支援機構が提供する会員登録情報自己管理システムを導入することになりました。今後は、学会 HP の各種手続き・お問い合わせ (<https://elsj.jp/inquiries/>) のページ上の「会員登録情報自己管理オンラインシステム (マイページ)」の項目に記載されている URL からシステムにアクセスの上、会員各自がオンライン上で会員登録情報の変更を行うことができます。

つきましては、同封した別紙「会員登録情報自己管理オンラインシステム (マイページ) の導入について」に記載されている会員 ID とパスワードを使ってシステムにアクセスし、個人アカウントであるマイページ上に現在記載されている各自の会員登録情報に誤りがないかをご確認下さい。変更が必要な場合は、最新情報を各自ご記入ください。なお、メールアドレスと生年月日はパスワードの問い合わせの際に必要となりますので、必ずご登録下さい。よろしくお願いいたします。

編集後記

月日が経つのは早いもので、現事務局が編集・発行する Newsletter「え〜ごがく」も今回の78号が最後になりました。会員の皆様の日頃の研究活動に少しでもお役に立てることができるように取り組んできたつもりですが、ご不満な点も多かったと思います。どうぞご容赦下さいますようお願いいたします。特に、コロナ禍の中での2年

間の大会が全てオンライン開催となり、皆様に直接お会いできなかったことは大変な心残りです。その反面、会場に足を運ばずに自宅から興味のある研究発表をピンポイントで聴くことができ、また、海外在住の研究者の最先端の研究に Zoom を通じて触れる機会も増え、現地開催方式では想像できなかったことも可能になりました。コロナは、悪い点も良い点も含めて私たちの学会活動も変えたのだと改めて感じています。今後も様々な点で本学会のあり方が変わっていくことが予想されます。

新年度からは、西岡宣明新会長の下、以下の新事務局が立ち上がります。

前田雅子（九州大学）[事務局長]

團迫雅彦（北九州市立大学）[編集委員会担当]

下仮屋翔（産業医科大学）[編集委員会担当]

大塚知昇（九州大学）[大会運営委員会担当]

黒木隆善（九州共立大学）

[財務・学会賞委員会担当]

萱嶋 崇（福岡大学）

[国際春季フォーラム・理事会担当]

林 慎将（南山大学）[広報委員会・

評議委員会・事務局長補佐担当]

新事務局へのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。（E.S）

2023年2月28日発行

編集・発行 日本英語学会

代表者 金子 義明

発行所 日本英語学会

<http://elsj.jp/>

〒112-0013

東京都文京区音羽1-22-16

開拓社内

電話 (03) 5395-7101

